

令和4年度3学期始業式 式辞（令和5年1月10日）

校長 高瀬 知郎

新年、明けましておめでとうございます。

令和5年が幕を開けました。今年のお正月は、時折、暖かな陽が差す穏やかな三が日となりました。また、昨日までの3連休もあって、例年よりも長い冬休みとなりましたが、皆さんはどのように過ごしましたか。親しい人々との心温まる時間の中で、家族や自分の未来について考えたり、初詣で将来の夢を祈ったり、決意を新たにしたりできたでしょうか。

「1年の計は元旦にあり」。今の新鮮な気持ちを大切に、自らの掲げた目標に向かって、令和5年も「自分磨き」をがんばってください。特に3年生は、今後の進路を決める最重要の時を迎えます。卒業式までの2か月間、中学校生活の総まとめと未来への道を切り拓く最大限の努力に期待しています。1，2年生と教職員一同、3年生のがんばりを心から応援しています。

さて、世界に目を転じると、去年は予測もしなかった出来事が次々と重なった1年でした。きっかけは2月に起こったウクライナ侵攻です。バタフライ（蝶）・エフェクト（効果）と言いますが、「1匹の蝶のはばたきによる小さな風が、巡り巡って地球の裏側でハリケーンを起こす」そんな例え話さながら、ヨーロッパで起きた二国間の戦争によって、多くの国が食料不足・エネルギー不足に陥り、大きな影響を受けています。また、他国からミサイル等による攻撃を受ける可能性が高まり、かつてない緊張を強いられている国もあります。もちろん日本も例外ではありません。コロナ禍で疲弊した社会に追い打ちをかける経済危機と国際情勢の変化により、エネルギーや安全保障等、国の未来を左右する政策において、重大な方針の転換を余儀なくされているのです。

世界や日本は、いったいどこへ向かっていくのでしょうか。

ユニセフによると、ウクライナ全土の子供たち約700万人は、校舎が破壊されたため学校へ通えていません。それどころか、マイナス20度にもなる寒さの中で、電気・暖房・水が使えない状態が続いている。今このときも、何百万人という子供たちが凍てつくような寒さと暗闇に震え、学ぶことはおろか、命の危険に瀕しているのです。この現実を前に、私達はどうかすればよいのでしょうか。

「Think globally, Act locally」という言葉を聞いたことはありますか。

「地球規模で考え、足元から行動せよ」という意味の世界的に有名な言葉です。グローバルに（世界規模で）考え、ローカリーに（身近なところから）行動せよ、と言うのです。世の中の動きに鈍感であってはなりません。今、世界で何が起きているのか。その中で、日本はどうあるべきか。その上で、今、自分にできること、やらなければならないことは何なのか。みんなで真剣に考えていきましょう。一人一人の考えや行動は違って、目的は同じ、「世界の平和」と「人類の幸福」、そして「地球全体の調和と発展」のためです。そのために、自分が人生をかけてなすべきことを本気で探し考える。それが学ぶことの本当の意味ではないでしょうか。

「新聞を読む」ことも「読書をする」ことも、より深く豊かに世の中を理解するためです。3年生が総合的な学習で学んだ「SDGs」の17の目標と169のターゲットも、「世界とつながり、未来に貢献する生き方」の手掛かりになるかもしれません。

3学期、たくさんのことを学んで未来社会のあるべき姿を語り合い、そこで活躍している自分や友達の姿を想像しながら、本当になりたい自分を目指して自分を鍛えていきましょう！3か月後、今よりもっと「成長」し「進化」した皆さんに出会えることを楽しみにしています。